

認定看護師紹介 / 感染管理認定看護師  
千田 貴恵 (ちだ たかえ)

感染管理は、病院の医療安全の中の重要な柱の一つです。現在、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が広がらないように適正な抗菌薬の使用を推進する活動や、標準予防策をはじめとする感染対策を実践することで薬剤耐性菌を含む病原体による院内伝播を阻止する活動を推進しています。このような活動は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員などの他職種チームで行いますが、感染管理認定看護師の役割はこのチームをけん引し、感染管理業務を円滑に推進させることです。

感染管理業務の内容のひとつに、ICTチームによる巡回があります。施設全体を毎週1～2回の頻度で巡回しています。巡回の報告書は速やかにまとめ届けることで、現場がすぐに現

状を確認し、改善できるようにしています。報告書の特徴として、よいところは「花マル」で称賛し、改善が望まれる点は、その理由まで丁寧に伝えるようにしています。さらに、巡回した全部署の内容を見れるようにし、他部署の評価も参考にできるようにしています。この巡回と報告書作成だけでも、労力を必要とする大きな業務になっていますが、現場が感染管理のモチベーションを上げるきっかけにもなり、ICTチームと現場の距離が縮まると実感できます。また、感染発生を早期に探知し介入改善するために、感染リスクが高いと思われる中心静脈カテーテルや人工呼吸器など医療デバイスに対するサーベイランスがあります。このサーベイランスは、病院医療の質の評価にもつながるため、と

ても重要な業務であり、感染管理認定看護師として疫学のスキルを学ぶ貴重な機会になっています。

感染管理認定看護師として業務に従事し2年目であり、まだまだ日常の業務に追われる日々ではありますが、常に医療現場を理解し、職員と話し合うことを大切にしていきたいと思っています。



People

with

東北大学病院  
地域医療連携センター通信  
[With/ウィズ]

vol.46  
2018年8月10日発行

お知らせ

● 外来担当医表を発行いたしました

※完全予約制の診療科へ患者さんをご紹介くださる医療機関は、必ず事前に予約のお申し込みをお願いいたします。

Information

● 「かかりつけ医」が検索できます

当院のホームページに「かかりつけ医データベース」を掲載しております。かかりつけ医を検索する際は、ぜひご利用ください。

連携医療機関・かかりつけ医データベース



エリア、診療科目など様々な条件でかかりつけ医を検索できます！

<http://www.renkei.hosp.tohoku.ac.jp/>

編集後記

暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。そろそろ夏の疲れがピークに達する頃です。先日ニュースで、夏の疲労には「塩キウイ」がいいと見ました。キウイは糖分の他、ミネラルなど体に必要な栄養が豊富で、そこに塩をひとつまみかけて食べると熱中症対策としていいそうです。残暑も厳しいようですが、体調を整えて実りの秋を迎えたいと思います。(S)

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター  
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132  
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp  
ご意見・ご要望は地域医療連携センターまでお問合せください。

第18回東北大学病院市民公開講座  
「もっと知りたい! 血圧と腎臓の神秘」を開催しました

Event

平成30年6月23日(土)に仙台国際センターにおいて、「もっと知りたい! 血圧と腎臓の神秘」をテーマに第18回市民公開講座を開催し、約900人の方々の参加がありました。

基調講演では、腎・高血圧・内分泌科長の伊藤真嘉教授から、「腎臓を護ることは命を護ること～血圧管理で百までピンピン～」と題して、腎臓と高血圧について紹介し、高血圧の治療・予防、減塩の必要性及び人の塩分濃度についての説明がありました。続いて、森本玲講師から、「ホルモンを知り血圧を下げよう」と題して、ホルモンの異常が原因となる高血圧症「原発性アルドステロン症」について紹介し、原住民と現代人の塩分濃度の違いについて、食生活の変化に対応するために人の身体が変化している説明がありました。さらに、宮崎真理子特命教授から、「メタボに潜む腎臓

病」と題して、宮城県民にはメタボリックシンドロームの方が多く紹介され、メタボリックシンドロームと腎臓病の関わり及び腎臓病の重症化を防ぐ方法について説明がありました。

記念講演では、保健活動を考える自主的研究会代表の熊谷勝子氏から、「体の中での塩のお仕事は？」と題して、長野県における保健活動の取り組み例について紹介があり、食生活における減塩の重要性についてご講演がありました。

パネルディスカッションでは、「症状のない病気をどう気づいてもらう

か？」と題して、工藤正孝准教授の進行により、事前に、参加された方々からいただいた質問について、パネリストの講演者が回答となる説明を行いました。

また、イベントコーナーでは、血圧を測って健康チェック!」をテーマに、血圧測定体験コーナーでの医師によるワンポイントアドバイス、減塩食に関する食品サンプルの展示とご案内、当院の診療科を案内するポスター展示を行いました。



新診療科長挨拶／高次脳機能障害科 科長  
鈴木 匡子（すずき きょうこ）

2017年12月1日に東北大学病院高次脳機能障害科を拝命しました鈴木匡子です。当科の前身である高次機能障害リハビリテーション科は、1994年に本邦初の高次脳機能障害専門の診療科として当院に誕生しました。私は1995年から10年余をこの科での臨床に従事した後、山形大学を経て、このたび当院の高次脳機能障害の診療を担当させていただくことになりました。

当科は脳の器質的損傷によって生じる高次脳機能障害を専門とし、神経疾患・外傷による高次脳機能障害と認知症を二つの柱として診療にあたっています。高次脳機能障害は脳血管障害、脳腫瘍、脳外傷など局所脳損傷の後遺症として、社会復帰の際におおきな問題となります。失語、健忘、視空間認知障害、遂行機能障害など様々

なものがあるため、症状を正確に見きわめた上で個人にあわせた治療が必要になります。また、認知症は全国で500万人ともいわれますが、その原因疾患は多岐にわたり、早期に原因疾患を診断して治療方針を決めることが大切です。当科では診断困難例、他科と連携した治療が必要な症例、若年性認知症を中心に、神経機能画像を含むバイオマーカーも活用して鑑別診断を行い、病診連携で認知症診療を進めていきたいと思っています。

高次脳機能障害、認知症ともに薬物療法だけでなく、非薬物療法がきわめて重要であり、コメディカルをはじめ、介護・福祉関連など職種の方との関わりが欠かせません。大学病院の責務として教育・研究も行い、高次脳機能障害の理解が広まるよう活動していきます。これからも神経系の診療

科はもちろんのこと、関連各所と緊密な連携をとって最善の医療をめざしてまいりますので、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



People

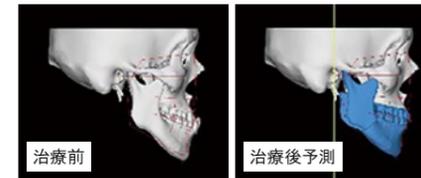
新診療科長挨拶／矯正歯科 科長  
溝口 到（みぞぐち いたる）

東北大学病院 歯科診療部門矯正歯科 科長を拝命いたしました溝口 到と申します。私は、1983年に東北大学歯学部を卒業（13回生）、歯学研究科大学院を修了後、1996年から加国アルバータ大学での1年弱の文部省在外研究員を経て、1997年に北海道医療大学に赴任しました。それから20年余りの歳月を経て、2018年6月1日付で東北大学病院の一員を務めることになりました。

矯正歯科治療では、近年様々な革新的な診断・治療技術が臨床に導入されるようになりました。特に、三次

元形状計測およびコンピュータなどの目覚ましい技術革新によって、歯列・咬合・顎顔面骨格の三次元診断、歯の移動のシミュレーション、顎矯正外科治療での離断骨片の移動のシミュレーション、仮想現実で設計したアーチワイヤーの屈曲などが可能となりつつあります(図)。診断・治療に関する様々な情報が氾濫するなか、それがより質の高い治療に有用であるかどうかについてエビデンスレベルの高い情報を発信することも、大学病院の使命の一つであると考えます。

我々矯正歯科のスタッフは、地域医



外科的矯正診断・治療システム  
(北海道医療大学 上地先生より)

Dental Department

療の最前線でご活躍されている先生やスタッフの方々の信頼関係を構築して、仙台市、宮城県さらには東北地方における地域医療のさらなる充実・発展のため、微力ながら全力を尽くす所存であります。今後とも皆様の本診療科に対するご理解とご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



中央施設等紹介  
第一種感染症指定医療機関に指定されました

2018年5月1日に東北大学病院は、宮城県から第一種感染症指定医療機関に指定されました。同月に運用開始した先進医療棟には、エボラ出血熱など一類感染症の患者（疑い例を含む）を診察することのできる特殊な構造の感染症病室2床と外来診察室1室、専用検査室が設置されています。当院が第一種感染症指定医療機関として整備された背景としては、一類感染症の患者に必要な医療を適切に提供するとともに、感染症の院内外における拡がりを防ぐためにすべての都道府県に1か所以上の第一種感染症指定医療機関を配置するという国の方針に基づいて、宮城県との長年の調整により計画されたものです。宮城県は、長らく第一種感染症指定医療機関のない空白地域でしたが、2014年に西アフ

リカで発生したエボラ出血熱の大流行をきっかけに、すべての都道府県において第一種感染症指定医療機関の整備が急速に進み、宮城県でも本格的に整備が推し進められました。

当院の感染症病室の特徴としては、病原体を病室内に封じ込めるために高い気密性と陰圧制御された特殊な空調・換気設備を有していることや、汚染された可能性のある廃棄物を安全に処理できる高圧蒸気滅菌器や専用の検査室、および排水処理施設が設置されていることなどが挙げられます。感染症病室の構造や設備が安全であるべきなのはもちろんですが、感染症病室内で患者対応にあたる医療スタッフが安全に診療できるよう、医師や看護師、臨床検査技師、放射線技師などからなる医療チームを編成し、特殊

な防護具の着脱訓練などの定期訓練を昨年度から実施しています。さらに今後は、保健所などとの合同訓練を行い、安全に患者を搬送して当院で診療できる体制を確立していきたいと考えています。



Facility

イベント  
地域連携オープンカンファレンスを開催しました

7月4日(水)東北大学病院臨床中講堂において「顔の見える連携をめざして」をテーマに、平成30年度オープンカンファレンスを開催しました。当カンファレンスは、当院の後方支援担当者と、地域の病院、訪問看護ステーション、保健師などの後方支援に関わる担当者が直接交流することで顔の見える連携を推進し、円滑な転院・退院調整に繋げることを目的として、前年度から開催しております。

前年度は仙台市内の方々にご出席いただきましたが、今回は遠く気仙沼市や仙台市外の方々、約40名にご出席いただきました。

カンファレンスでは、当院の地域医療連携センター後方支援スタッフがご挨拶をさせていただき、青木正志センター一長より、「病院の概要・機能について」

「地域医療連携センターの役割について」と題し、講演を行いました。

また、「顔の見える連携をする上で工夫していること」をテーマにグループディスカッションを行いました。市外の様々な地域から多くの職種の方が参加されており、各地域や事業所の特徴やその地域で担っている役割を知ることができました。各グループ毎に多くの意見交換がありとても有意義な時間となりました。

ある事業所からは、「地域では、このような大勢の方が一堂に集まって情報交換をする機会がなかなか作れないので大学病院のような機関が声がけをして開催してほしい。今回は顔の見える連携がより深まったと感じた。ぜひこれからも続けてほしい」とご意見をいただきました。

今後も地域の関係機関の方々と情報交換を行う場として企画・運営し続けていきたいと考えております。

今回は11月に開催予定です。



Event